

2020年10-12月期GDP予測について

フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一
 政策・経済研究部 研究員 前田 和孝

1. 前期比プラス成長を予想

内閣府から2月15日に発表予定の2020年10-12月期実質GDP成長率は、前期比+2.0%（年率換算：+8.4%）と、高い伸びだった7-9月期から2四半期連続でのプラス成長を予想する。堅調な外需がけん引役になったとみる。

2. 輸出増がプラス成長のけん引役に

需要項目別に見ると、個人消費は7-9月期：前期比+5.1%→10-12月期：同+1.5%と2四半期連続の増加を予想する。10-11月は、Go To Travel キャンペーン、Go To Eat キャンペーンなどの政策効果が個人消費を押し上げたが、年末にかけてはそうした効果が剥落したこともあり、小幅の伸びにとどまったと見込む。住宅投資は、堅調なマンション需要等に支えられ、7-9月期：前期比▲5.8%→10-12月期：同+0.2%と小幅ながらプラスに転じたと予想する。

設備投資は、業績悪化を受けて多くの企業が設備投資計画の下方修正に踏み切る中でも、輸出の持ち直しを受けた製造業の機械投資や、DX（デジタルトランスフォーメーション）需要が一定の下支えとなり、7-9月期：前期比▲2.4%→10-12月期：同+2.8%とプラスに転じたと見込む。

公的固定資本形成は、国土強靱化関連の防災・減災工事や災害復旧工事が引き続き予定通り進捗していることから7-9月期：前期比+0.5%→10-12月期：同+0.8%と3四半期連続のプラスを予想する。輸出は、7-9月期：前期比+7.0%→10-12月期：同+10.3%と2四半期連続で高めの伸びになったと予想する。秋口まで、主要国が反動増的な生産・需要回復局面にあったことが、輸出の増加に繋がったとみる。年末にかけては、欧米向けの回復は一服したものの、中国向けの輸出は堅調な伸びを続けた。

3. 1-3月期は再びマイナスに

1-3月期の実質GDP成長率は、コロナ感染再拡大に伴う二度目の緊急事態宣言発出により、特に個人消費が落ち込むと予想され、再びマイナス成長となる可能性が高い。緊急事態宣言が当初の予定通り2月7日に終了する可能性は下がっており、延長期間が長引く場合は、1-3月期以降の日本の景気に対し、予想以上の下押し圧力となるリスクは残る。ただ、ワクチンの普及や、各国の財政・金融政策の効果もあって、2021年の世界経済は基本的に堅調な推移が期待でき、日本経済も均せば外需主導で緩やかな回復基調を続けると予想する。

実質GDP成長率予測

(前期比:%)	19/12	20/3	20/6	20/9	→予測	
					20/12	寄与度
実質GDP	-1.9	-0.5	-8.3	5.3	2.0	—
前期比年率	-7.2	-2.1	-29.2	22.9	8.4	—
民間最終消費支出	-3.1	-0.6	-8.3	5.1	1.5	0.8
民間住宅投資	-1.8	-3.7	0.5	-5.8	0.2	0.0
民間設備投資	-4.6	1.4	-5.7	-2.4	2.8	0.4
政府最終消費支出	0.4	-0.3	0.3	2.8	0.3	0.1
公的固定資本形成	1.2	-0.0	1.9	0.5	0.8	0.0
民間在庫品増加(寄与度)	-0.1	0.1	0.1	-0.2	—	-0.2
純輸出(寄与度)	0.6	-0.4	-3.1	2.7	—	0.8
財貨・サービスの輸出	0.2	-5.3	-17.1	7.0	10.3	1.7
財貨・サービスの輸入	-3.1	-3.1	1.4	-8.8	5.2	-0.9
内需(寄与度)	-2.5	-0.2	-5.2	2.6	—	1.2
名目GDP	-1.2	-0.5	-7.9	5.5	2.1	—
前期比年率	-4.8	-1.8	-28.1	23.9	8.8	—
GDPデフレーター(前年同期比)	1.5	0.9	1.4	1.2	1.4	—

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411